

# 互いを認め合い、自信をもって活動することができる児童の育成

—自信の高まりを実感するための、「心の温度計」の活用と

「だんだんタイム」を取り入れた学級活動を通して—

特別研修員 生徒指導・教育相談 茂木 友香里（小学校教諭）

【目指す児童像】

## 互いを認め合い、自信をもって活動することができる児童



自信の高まり

### 手立て2 互いを認め合う「だんだんタイム」の設定

黒板前に半円状に集まって、互いの思いを伝え合い、認め合う活動を行う。



ホワイトボードにマグネットを貼り、知りたいこと・伝えたいことを明確にして交流し合う。



応援してもらってうれしいな。がんばってみよう。

〇〇くんはいつも元気だから、きっと毎日元気に歩けるよ。一緒にがんばろう。

「だんだんタイム」の中で、「困っている時に助けてくれてありがとう」「いつも元気なところがいいね」などの互いのよさを伝え合う姿が見られた。

私にもこんないいところがあったんだ。もっとのびしたいな。



### 実践1「いいところを伝え合おう」

宿泊学習に向けて互いを応援し合う「だんだんタイム」の中で、「早起きが苦手だからがんばりたい」などのめあてに対して、「一緒に頑張ろう」などと応援し合う姿が見られた。

みんなに勇気をもらったから、やり遂げられると思う。

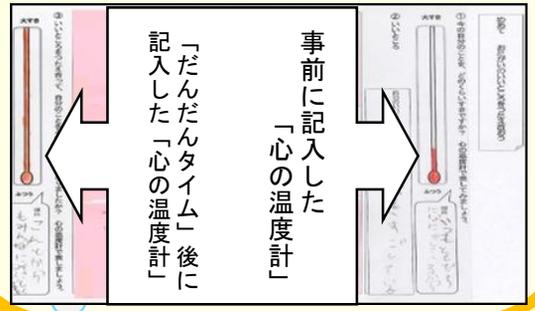


### 実践2「宿泊学習をやり遂げよう」

### 手立て1

### 自信の高まりを実感するための「心の温度計」の活用

自信がどのくらいあるかをワークシートの「心の温度計」を用いて可視化し、全体交流「だんだんタイム」の前後で比較することで、自信の高まりを実感していく。



### 児童の実態

- 自分に自信がない児童がいる
- 友達に自分の思いを伝えることが苦手の児童がいる

### 教師の願い

- 互いの考えや思いを伝え合えるようになってほしい
- 自分に自信をもってほしい

### 生徒指導提要

好ましい人間関係が醸成されている集団においては、一人一人の児童生徒が自ら設定した目標実現に取り組んだり（中略）自己の生活の向上を目指して努力する

### 成果

- ・「心の温度計」を用いてどのくらい自信があるかを可視化し、「だんだんタイム」の前後で比較する中で、全ての児童が自信の高まりを実感していた。
- ・「だんだんタイム」において、共感し合ったり応援し合ったりして笑顔で関わり合い、互いを認め合うことができた。

### 課題

- ・「だんだんタイム」で互いを認め合う際に、思い込みや不確かな理由のため、思いが伝わりにくい場面が見られた。学校生活の様子などを理由とすることで、互いを認め合う気持ちをさらに共有していく必要がある。
- ・児童の自信がさらに高まっていくように、他教科でも「だんだんタイム」を積み重ねていく。